

【河川教育】

石狩川振興財団は、関係機関・市民団体等を支援し、石狩川の水害や治水の歴史、水利用、流域の風土、水文化、防災、河川環境及び川の安全利用などをテーマに学習活動を実践しています。

実践拠点 「須部都川（ちらいおつ遊び塾の裏）」

『さけ稚魚放流会』

開催日：平成 29年 4月 17日（月）

【活動の概要】

4月17日（月）月形町と「花の里つきがたの水と緑を愛する会」の主催により、サケの稚魚放流会が実施されました。

昨年12月に、千歳のサケ・マスふ化場から提供された卵を、月形町の役場等でふ化させ、約4cmの大きさに育てた1,200尾の稚魚を須部都川に放流しました。

当日は晴天の中、地元のちらいおつ遊び塾、月形花の里こども園、月形小学校3年生、関係者を合わせ130名が参加し、「わたしたちの川に 大きくなって 戻ってきてね」を合い言葉に、丁寧に放しました。放流会の後は、石狩川振興財団が紙芝居を実演し、川の大切さについて学びました。

【主 催】

月形町、花の里つきがたの水と緑を愛する会

【参加人数】

約130人

【日 時】

平成29年4月17日（月）

【場 所】

須部都川（ちらいおつ遊び塾裏）

【内 容】

- | | |
|-------------|--------------|
| 10:00～10:15 | 開会挨拶、来賓紹介 |
| 10:15～10:20 | 記念撮影 |
| 10:20～11:00 | さけ稚魚放流 |
| 11:00～11:10 | 川の大切さに関する紙芝居 |
| 11:10～11:15 | お礼の言葉 |
| 11:15 | 解散 |



主催者による開会挨拶



わたしたちの川に 大きくなって もどってきてね



1,200匹の稚魚



「元気でね～」と稚魚を放流



川の大切さについての紙芝居



真剣に紙芝居をみる子どもたち